

## 海洋観測強化P T 中間報告

### (1) 構成員

主査：	古庄 幸一	元海上幕僚長
参与：	浦 環	九州工業大学社会ロボット具現化センター長
	佐藤 慎司	東京大学大学院教授
	高島 正之	横浜埠頭株式会社顧問
	前田 裕子	国立研究開発法人海洋研究開発機構監事 株式会社ブリジストンフェロー（執行役員待遇） グローバルイノベーション管掌付 兼 知的財産本部主任研究部員
	水本 伸子	株式会社IHI執行役員 調達企画本部長
	鷺尾 圭司	国立研究開発法人水産研究・教育機構理事（水産大学校代表）
外部有識者：	金沢 敏彦	国立研究開発法人防災科学技術研究所 海底地震津波観測網整備推進室長
	河野 健	国立研究開発法人海洋研究開発機構研究担当理事補佐
	香田 洋二	元自衛艦隊司令官 ジャパン マリンユナイテッド株式会社顧問
	谷 伸	東洋建設株式会社顧問 GEBCO（大洋水深総図）指導委員会委員長
	松田 裕之	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
	丸川 裕之	一般社団法人日本プロジェクト産業協議会専務理事
	道田 豊	東京大学大気海洋研究所教授・副所長 IODE（国際海洋データ・情報交換）共同議長
	早稲田卓爾	東京大学大学院教授
	和田 時夫	国立研究開発法人水産研究・教育機構理事

### (2) 本P Tにおける検討事項

我が国の海洋観測等について、どのような対策をとれば、必要な観測体制を維持・強化できるのかについて、海洋基本計画、参与会議意見書及び総合海洋政策本部決定の関連する記述に対するフォローアップを行いつつ、以下の論点について検討する。

#### 1. 海洋観測の意義、重要性を踏まえた、海洋観測の強化

- 海洋調査船等による現業機関の定常的な海洋観測が、限られたリソースの下でひっ迫している現状を踏まえ、これを維持・強化するためにとり得る方策について議論を行う。
- 海上における海洋観測とは相補的な関係にある、衛星を用いた海洋観測の推進等、海洋と宇宙が一体となった海洋観測体制の確立のために必要な海洋に

対する宇宙技術の活用方策について議論を行う。

- 海洋観測分野における我が国のプレゼンスを高め、国際的な海洋観測プロジェクトにおいて我が国が継続的に主導的役割を担うために必要な方策について、人材育成の観点も含めた議論を行う。

## 2. 海洋観測成果の有効活用の推進

- 海洋観測によって得られた成果を、当初の目的とする分野以外でも有効活用するため、事前の海洋観測計画の共有、事後の成果の共有を一層推進する方策について議論を行う。
- 「国の防衛、安全、経済、環境に影響を与える可能性のある海洋に関する事象を効果的に把握する」ための取組である海洋状況把握(MDA)について、総合海洋政策本部決定や関連計画を踏まえ、海洋観測成果の共有の観点から議論を行う。

## 3. 「海洋調査の推進」に関する重点事項

- 上記1. 2. の検討を踏まえ、次期海洋基本計画(平成30年からの5か年)における「海洋調査の推進」に関する重点事項を抽出するとともに、検討した課題についての工程表を作成する。

### (3) 本PTの検討スケジュール

平成28年

7月1日(金)

#### 第1回PT

- ・ 観測強化PTにおける検討事項についての議論

7月26日(火)

#### 第2回PT

- ・ 外部有識者の紹介
- ・ 「我が国の海洋状況把握の能力強化に向けた取組」(総合海洋政策本部決定)の概要報告
- ・ 海洋観測の強化についての議論(定常観測網の維持・強化、宇宙技術の活用、国際観測プロジェクトへの参画)

10月5日(水)

#### 第3回PT

- ・ 第2回会合の論点整理及び追加の議論  
観測分野における海洋・宇宙の連携について

11月17日(木)

#### 第4回PT

- ・ 海洋観測の成果の活用方策についての議論(海洋観測計画・成果の相互共有、海洋状況把握の推進)
- ・ 基本計画、参与会議意見書に関するフォローアップ
- ・ PT報告書のまとめ方について

12月15日（木） 第5回PT

- ・ PT報告書案の検討

平成29年

1月下旬～2月上旬 第6回PT

- ・ PT報告書とりまとめ

#### (4) 中間報告

##### 1. 現時点までの検討における論点整理

(2) のとおり

##### 2. 取りまとめ（最終報告）の方向性

海洋観測は、海洋状況把握の基盤であり、適切な海洋政策推進に不可欠な活動であるとの認識のもと、主に以下の論点から報告をまとめる予定。

- 定常観測の充実・強化を行うためには、適切なファンディングの選択や宇宙技術等をはじめとする新しい観測手法の導入といったアプローチが必要ではないか。
- どこまで観測が減少すればどういった支障をきたすのか、またどの観測項目がどの程度の精度で必要なかを明確にすべきではないか。
- 我が国が有する海洋観測網や観測データは海洋状況把握の観点からその重要性を再認識するべきではないか。
- 衛星を含めた海洋観測体制の検討には、「海洋現象の予測は海洋状況把握に必須である」という観点を踏まえ宇宙との連携をすすめるべきではないか。
- 観測の効果的・効率的実施のために、海洋観測成果や調査計画の情報共有に係る取組を一層推進すべきではないか。
- 国際的プロジェクトの主導権を確保するためにも、研究者に対する政策的なバックアップ体制の構築や、海洋人材育成の推進を進めるべきではないか。

等